

ふれあい看護体験を開催しました

9月30日、北海道看護協会が推進する「ふれあい看護体験」を当院で実施しました。

今回は、札幌国際情報高校の3年生6名が参加。看護師の業務内容について学ぶとともに、心臓カテーテル治療における看護師の補助業務についても説明を受けました。さらに、実際に当院の看護師とともに患者さんと接する機会を通じて、看護の現場を肌で感じてもらいました。



この「ふれあい看護体験」は、子どもたちや学生に看護の魅力を伝え、将来の医療・看護を担う人材の育成を目的とした大切な取り組みです。今後も当院では、地域の教育機関と連携しながら、医療職への理解を深める活動を積極的に行っていききたいと思います。

09:00～ 10:00	看護師のしごと、看護師になるには（講義）
10:00～ 10:10	院内ツアー
10:10～ 10:30	救急処置室、内視鏡室、カテ室見学・体験ツアー 救急用具の使用法、ガウンテクニック体験等
10:30～ 11:30	病棟看護体験、患者コミュニケーション、血圧測定、Spo2測定、心音確認
11:30～ 11:50	看護師への質問、若手看護職員から看護師志望理由と進学の実際について交流



3年生 おかうえさん

一日を通して実際に自分が看護師になれた感覚に浸ることができて、とても楽しかったです。始めの講義の中でも、特に寒気がある患者さんに電気毛布をかけるまでの過程にたくさんのエビデンスが含まれているという話が一番印象に残っていて、看護に携わるにはたくさん勉強が必要だなと再確認することができました。院内ツアーや救急処置室での体験では、ふれあい看護体験でしか見ることはできない、実際の現場を見ることができて時間が経つのがあっという間だったし、全てが貴重な経験にすることができました。看護師さんと実際にお話ししてみて、大学での経験や、普段の勤務内容など、たくさん質問した中で全て笑顔で答えて下さり、看護師へのあこがれが強くなりました。一日を通して全て楽しく学ぶことができました。ふれあい看護体験の場を設けて、たくさん教え下さりありがとうございました。